

マーケティング論ゼミナール合宿

2018年8月29日（水）～31日（金）マーケティング論ゼミナールの学生（院生を含めて20名）が、東京 代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにて、ゼミ合宿をおこないました。

マーケティング論ゼミでは恒例となっている合宿ですが、内容は盛りだくさんです。初日は、3年ゼミ生が普段から活動している、会計情報を活用した企業の経営分析報告会を合宿バージョンで展開しました。3年ゼミ生4名が日ごろの研究成果を報告するのですが、この日は4年ゼミ生も報告を聞いています。普段、3年ゼミ生と4年ゼミ生は活動が異なるため、総勢20名でゼミを行う機会はないだけに、活発な議論を展開していきます。



普段からゼミ活動は公開していて、ゼミ合宿でも、関心のある方は多数お越しになります。

これまでは、関西の大学に通う学生も一緒に研究活動を展開し、東西の学生交流の場となっていました。今年は、この活動に関心のある高等学校の生徒や先生方にもお越しいただきました。高校生にも発表してもらい、活発に意見し合いながら、何をマネジメントしようとしているのか、その挑戦とはどのようなものか、成果や課題をどのように捉えるか、いろいろと議論を深めました。

8月30日は、4つの企業の方にお越しいただき、ご講演いただきました。今年は、東京で活動する起業家を多く招聘し、なぜ起業を志したのか、働くことでどのような挑戦が為されているのか、未来をどのように展望して生きるのが望ましいのかなど、さまざまな視点が提供されました。若い起業家の言葉は生き生きとしていて、若者の心を捉えます。変化の激しい時代だからこそ、何を大切にすべきなのか不安になることも少なくありません。我々は、起業家から社会を見る目やビジネスモデルを鍛え上げること、そして、広義の意味で社会の発展に貢献するとはどのようなことなのかを学びます。視野を広げて挑戦することの意義を、大いに感じることができました。



ちなみに、4社目のマネックス証券は、大学院マーケティング論ゼミ修了生で同社勤務金さんプロデュースによる研修でした。最初に人事担当者が採用の視点を示したほか、金さんがネット証券のビジネスモデルを説明し、続いて、仮想通貨の進展と未来の経済活動についてへと、議論が進みました。仮想通貨において同社が高い先見性を持っていることは、日経新聞などでよく知られていますが、実務を携わる同社の方に直接説明を受け、未来を語っていただくことは、大変有意義でした。企業のマーケティング活動も大きく変化することが予見され、大変貴重な研修になりました。

最終日は、4年ゼミ生の卒論中間報告会を開催しました。マーケティング論ゼミでは、学生の興味

に沿ったテーマ設定を行います。就職活動を通じて知り得た業界の構造や特徴、成果と課題などに着目したものも少なくありません。不安になりがちな卒業後の人生も、研究を通じてどのような挑戦が可能なのかを考える機会になります。今年も、さまざまな企業、業界の構造に迫り、成果や課題に触れつつ、独自の分析フレームワークを用いて、大胆に議論する研究が揃いました。

初日と異なり、今度は4年ゼミ生が普段のゼミ活動を3年ゼミ生に披露する番です。昨年までのゼミ合宿では、どうしても3年ゼミ生が恐縮しがちでしたが、今年は学年を問わず活発な議論が続きました。時間も超過気味だったのが印象的です。それは、卒業研究自体が就職活動を、あるいは未来の社会を展望するものだからだったのかもしれません。参加した学生は、合宿全体を通じて、ゼミ活動を俯瞰的に捉えることができたはずで。また、ゼミ活動を通じて、在学中あるいは卒業後に、どのような挑戦を見据えていこうとするのか、各自が考える機会になっているようです。

さいごに、30日の晩は、懇親会が開催されました。学部生、院生すべてを交えた懇親会の開催は、この合宿が初めてとなります。日ごろは各自で研究して報告する関係に過ぎませんが、この日はゆったりとした時間の中で、互いの思いや考えに耳を傾ける時間があります。どんな仲間とゼミを構成しているのか、どんな夢を持って挑戦しているのか。少し近い距離に感じる人間関係の中で、思い切った話ができるのも、合宿の良いところです。特に今年は3年ゼミ生と4年ゼミ生の交流が深まったそうで、何よりでした。

学生にとってゼミ合宿は、ゼミ活動の成果を問う場にもなります。また、仲間とともに過ごす貴重な時間であり、それが「腹心の友」になるのであれば、有意義なことであります。今回は3日間とも好天に恵まれ、学生の前向きな姿勢もあって、良い合宿になりました。これも、後援会のご支援の賜物です。末筆ではございますが、皆様のご支援に心よりお礼申し上げます。



2018年9月3日 今村一真